

乱開発を食い止めようと、市民団体や建築家、弁護士らでつくる「景観と住環境を考える全国ネットワーク（景住ネット）」などが6月1日、東京都千代田区の法政大学市ヶ谷キャンパスで、集会「なぜ空き家800万戸時代に超高層乱立なのか」を開く。良好な住環境を守るまちづくりを考える趣

13.5.30

住環境を守る 乱開発から

(東京)

旨で、参加者を募っている。

景住ネット代表の日置雅晴・早稲田大教授が、低層住宅地で高層建築物の建設を厳しく制限するヨーロッパの例などを挙げ、住環境と町並みに配慮したまちづくり法制の必要性を説く。高層マンション建設などに反対する各地の市民グループの報告、商店街の空洞化などをテーマにしたパネル討論もある。

午前10時から。会場は58年館4

来月1日集会

階843教室など。会費は会員1000円、一般1500円。参加希望者は、できれば事前に事務局に連絡をほしいという。翌2日には、超高層マンションが林立する川崎市中原区の武蔵小杉駅周辺などの見学も予定する。問い合わせは、事務局＝電080(4914)2177＝へ。

(栗原淳)